

<テーマの設定>

昨年度よりすくわくプログラムの「自然」をテーマに観葉植物やメダカ等を取り入れて、自然を身近に感じられる環境設定をしてきました。今年は自然の中でも「木」と言う事に着目をして、木製玩具や木製遊具の設置をして木のぬくもりを感じながら遊べる環境を作っていきたいと思い「木」をテーマにしました。

「環境のデザイン」

- ・第一恩物～第六恩物（積み木）
- ・床上積み木
- ・かくれんぼパズル
- ・ビジーボード
- ・スロープ玩具（きのこころころ）
- ・引き出しボックス
- ・木製電車
- 各コーナーに設置



「子どもの姿」

【全体】

目新しい玩具に興味津々で触ったり遊んだりする姿が多い。気になるところに、自分で向かっていき遊んでいる。

【0歳】

コーナーが区切られていたことで、より集中して遊ぶ姿が多かった。ビジーボード等、指先を使う遊びに興味が強かった。

【1歳】

すぐに遊びに向かう姿、1周してから遊び始める姿と子どもによって様々だった。レールを掃除機のようにしたりどんぐりの玩具を人形のようにしたり他の物に見立てて遊んでいる。

【2歳】

木の匂いに気が付き「なんかにおいする。」「なんかくさいね。」という姿があった。積み木で車を作ると『はたらくくるま』を歌い始めて、近くにあった木の枝の玩具でソフトブロックを叩き太鼓のようにして合奏が始まる。

【幼児】

線路と電車の玩具は4歳児には数が少なく感じたようなので、2コーナーに分かれていたものを集めた。全ての線路を繋げそこを走らせ満足げな表情を浮かべる。

どんぐりとスロープの玩具は、3歳児も遊びやすく年長児と一緒に遊ぶ姿がよく見られた。どの年齢の子どもも自分から気になる玩具に向かい、面白い事を探しに行っていた。遊びの中で模倣遊びに発展したり共通の遊びをしたり、年齢が上がるごとに友だちと関わりながら遊びが発展していている。

匂いや感触（つるつる、ざらざら）に気付く姿もあった。

「振り返りと保育士の気付き」

- ・部屋を設定したことで、特別感が出て遊びに向かう姿が多かった。乳児クラスでは、グループごとに分かれて遊びに行ったので、遊びが邪魔されず集中して遊ぶ姿が多かった。日頃の保育にも参考になる遊びの環境になった。幼児クラスでは、関わりながら玩具を使い遊びを広げていく姿が多い。部屋に戻っても遊びを継続している姿もあった。遊びを継続できる環境を作りたい。
- ・コーナー設置を舞台上で段差をつけたり仕切りでスペースを確保したりすることで、遊びが中断されずじっくり遊ぶことができた。
- ・匂いや感触の違いに気づく姿もあり、子どもたちは五感で感じながら遊んでいるのかもしれないと思った。今後の遊びの中にも活かせるアイデアになりそう。
- ・積み木等、何かに見立てて遊びを発展させて行っている姿を見て、一つの形でも自由に発想や創造をしていると感じた。
- ・一回で終わらず続けていくことで、変化や成長も見てみたくなった。